

歯科補綴学 専門用語集

第5版

2019 The Glossary of
Prosthodontic Terms 5th ed.

公益社団法人
日本補綴歯科学会 編



医歯薬出版株式会社

あ

1 アーライン

vibrating line

口蓋の可動部と不動部との境界線。“アー (Ah)” と発音すると、口蓋帆張筋に続き口蓋帆挙筋が収縮するために軟口蓋は挙上する。発音を中止すると、これらは元に戻るが、アーラインはこの運動時における可動部の最前方を示していることから、上顎の義歯床後縁を設定するための基準として利用される。

2 RPI クラスプ あーるぴーあー

RPI clasp

近心レスト、隣接面板、I バーの3部分から構成される支台装置。3者が互いに拮抗的に働き、支持・把持・維持機能を発揮する。遊離端義歯の垂直方向の動きに対する考え方の違いにより Kratochvil 型と Krol 型の2種類がある。

3 RPA クラスプ あーるぴーえー

RPA clasp

RPI クラスプのIバーに代えて、Akers クラスプ型の鉤腕を組み合わせた支台装置。

支台歯付近のRPIクラスプにおけるIバーの走る粘膜部において、小帯の付着部が高い、あるいは顎堤粘膜のアンダーカット域の位置が高い場合に用いる。ニアゾーンでは、維持腕の上縁をサバイラインに一致させ、その下のアンダーカットはブロックアウトして、アームを支台歯に接触させない。これは床の回転、沈下に際して支台歯に力を伝達させないためである。

4 I. R. V. あいあーるびい

closure of the interdental space

(C. I. S.)

Interdentalraumverschluss (独語)

テレスコープクラウンの一種で、鼓形空隙を閉塞した可撤性の装置。内冠と外冠で鼓形空隙をなくして、食物残渣の停滞を防ぎ清掃しやすい形状に設計された装置で、Gaerny (1969) により発表された。

5 Eichner の分類

あいひな——ぶんるい

Eichner classification

歯列の欠損形態の分類法の1つ。上下顎の咬合状態を重視して表示したもので、左右の小白歯部および大白歯部の4ブロックの咬合支持域に分けて、それぞれに安定した咬合関係が存在するか否かによって3型に分類したもの。

すなわち、4支持域すべてに咬合接触を有するもの〔A型〕、4支持域中の一部の支持域のみに咬合接触を有するもの〔B型〕、すべての支持域に咬合接触がないもの〔C型〕で、いずれの型も類型を含む。Eichner (1955) により提唱された。

6 アクセホール

access hole

インプラント体やアバットメントに上部構造(クラウン、ブリッジ、アタッチメント)がスクリューで固定される場合に、連結スクリューを挿入するために上部構造に形成される穴。前歯部では審美性を考慮して舌側面に、また臼歯部では力学的観点から咬合面の中心窩に位置することが望ましい。

7 アタッチメント

attachment

可撤性義歯に使用される支台装置の1つ。マトリックスとパトリックスとから

アプライアンス

暫時的に歯列の咬合面を被覆し、咬合の改善や診断に用いられる可撤性の口腔内装置。スタビライゼーションアプライアンス (stabilization appliance)、リラクゼーションアプライアンス (relaxation appliance)、リポジショニングアプライアンス (repositioning appliance) などがある。

105 オクルーザルテーブル

occlusal table

天然歯や補綴装置の臼歯部の咬合面、すなわち咬合の保持や咀嚼に直接関与する面。

106 オクルーザルデバイス→「オクルーザルアプライアンス」参照

107 オクルーザルランプ

occlusal ramp

外科処置などにより下顎偏位が生じた場合、咬頭嵌合位を保持するために上顎義歯や口蓋板に付与された咬合面の機能を担うテーブル様の構造物。通常、人工歯や残存歯の口蓋側に付与されるのでパラルランプ (palatal ramp) ともいう。

108 オッセオインテグレーション

osseointegration

骨組織とインプラント体との界面に炎症所見が認められず、かつ、骨のリモデリングを妨げずに良好な接触関係が維持される状態。骨組織とインプラント体界面の光学顕微鏡像において、界面に軟組織が介在せず、直接接合していることが必要条件とされる。

109 オッセオインテグレートッドインプラント

osseointegrated implant

〔同義語〕骨結合型インプラント

インプラントの1つで、その下部構造

が骨組織に密着した結合状態を呈し、インプラント体に加わった力を直接骨に伝達する様式のもの。

110 オッセオインテグレートッドブリッジ→「ボーンアンカーダブリッジ」参照

111 オトガイ唇溝 —しんこう

mentolabial sulcus

下唇とオトガイ部との境界の皮膚を横走する弓形の浅い溝。老人様顔貌の評価、咬合高径の評価、下顎義歯の前歯部人工歯排列位置、義歯床翼の豊隆などの指標となる。

112 オベイト型ポンティック —がたー

ovate pontic

外科的な補綴前処置により形成した顎堤粘膜の凹みに、球面状の基底面が入り込み接触する形態のポンティック。審美性を重視した形態であるが、ブリッジ装着までの期間プロビジョナルブリッジで凹みを圧迫して維持しておく必要があり、基底面の清掃にも注意が必要など、生体親和性の点で問題も残されている。

113 オルタードキャスト法 —ほう

altered cast technique

義歯の機能時における床と粘膜との適合を図るため、解剖学的印象により製作した模型の欠損部のみを機能印象による模型に置き換える方法。

114 Orton クラウン おるとんー

Orton crown

歯型の全周に適合させた純金製のマトリックスの歯頸部に、22K 金板で幅の狭い帯環をろう (鍛) 付けし、歯冠形態をワックスアップ後、鑄造して製作する全部被覆冠。金属の鑄造収縮をマトリックス箔使用により防ぐために考案された。ガス抜きがうまくないと鑄造が困難であ

さ

435 最終印象

final impression

→「精密印象」参照

436 最終義歯 さいしゅうざし

definitive denture

補綴治療計画に基づき、暫間義歯による治療などを経て、全部床および部分床義歯の目的を達成するために必要なすべての前処置を完了した後に最終的に装着される義歯。

437 最終補綴装置

さいしゅうほてつそうち

definitive prosthesis

長期間使用するために計画・設計された補綴装置の総称。

438 最前方咬合位

さいぜんぽうこうごうい

most anterior (occlusal) position,
most protrusive occlusal position

上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を最も前方に突き出した顎位。切歯点部は咬頭嵌合位の前方約7~10 mmで、このとき下顎頭は関節結節最下端付近まで前進している。

439 最側方咬合位

さいそくほうこうごうい

most lateral occlusal position

上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を最も側方に変位させた顎位。切歯点部は咬頭嵌合位の側方約8~12 mmで、下顎頭の運動が正常な場合には側方咬合位は左右対称性を示す。

440 最大開口位 さいだいかいこうい

maximal opening position

開口時において上下顎の離開度が最大となる顎位。

441 最大開口量 さいだいかいこうりょう

maximal mouth opening

最大開口位における上下顎の中切歯切縁間距離あるいは顎堤頂間距離。正常有歯顎者の平均値は50 mm程度であり、40 mm以下は開口障害といわれている (Solberg, 1976)。

442 最大咬合力 さいだいかうこうりょく

maximal occlusal force

力いっぱいのかみしめ時などに、顎口腔系器官・組織の働きにより、上下顎の歯あるいは人工歯咬合面に発現する力の最大値。一般に歯根膜の耐圧能によって決まるが、顎口腔機能評価の指標の1つとして用いられる。

443 最大豊隆線 さいだいほうりゅうせん

circumferential line

特定の方向からみた歯の最大円周を示す線。サベイヤーで設定された支台歯歯軸における最大豊隆線をサベイラインという。

444 最大豊隆部 さいだいほうりゅうぶ

maximum convexity

特定の方向からみた歯冠の唇・頬・舌側歯面における豊隆の最も大きい部位。

445 彩度 さいど

chroma

色の三属性の1つ。色の鮮やかさ、濃さの感覚的尺度。無彩色を0とした各色相に共通な間隔尺度としている。ある色相に白色光または無彩色を混合していくと次第にその色相が薄められていくことを、彩度が低くなるという。

→「Munsell 表色系」参照

446 サイドシフト

side shift

ある。

692 咀嚼リズム そしゃくー

masticatory rhythm

咀嚼運動の基本的な律動。動物実験の結果では、脳幹網様体に存在するリズムジェネレータで形成されるとされる。

693 咀嚼力 そしゃくりよく

masticatory force

咀嚼時に、顎口腔系器官・組織の働きにより咬合面間に発現する力。

694 ソフトブローイング→「ブローイングテスト」参照

た

695 待機荷重→「待時荷重」参照

696 対咬関係→「対合関係」参照

697 対向関係【顎堤の】

たいこうかんけい [がくていー]

ridge relationship, ridge relation

上下顎の顎堤の位置関係。前頭面での対向関係と矢状面での対向関係とがあり、臼歯部人工歯の頬舌の排列位置や最後方人工臼歯の位置決定などに利用される。

698 対合関係 たいごうかんけい

interocclusal relationship

〔同義語〕対咬関係

上下顎の歯のかみ合った状態。正常な天然歯列の咬頭嵌合位では、上顎の歯が下顎の歯を被蓋し、臼歯の機能咬頭は相対する歯の咬合面にある窩または辺縁隆線にかみ込み、1歯対2歯で緊密に咬合接触している。

699 対抗作用→「拮抗作用」参照

700 対合歯 たいごうし

antagonist, dental antagonist

上下顎の歯が咬合したとき、その歯の

咬合の対象となる歯。

701 ダイコム

digital imaging and communications in medicine (DICOM)

CT、MRI、内視鏡、超音波などの医用画像診断装置や医療情報システムなどの間でデジタル画像データや関連する診療データを通信・保存する方法を定めた国際標準規格。

702 待時荷重 たいじかじゅう

delayed loading

〔同義語〕待機荷重、遅延荷重、待時負荷、遅延負荷、待時加重

インプラント体を顎骨内に埋入してから、下顎で3ヵ月間以上、上顎で6ヵ月間以上の免荷期間（unloaded period）を置いた後に、上部構造を装着して咬合負荷を加えること。荷重を加える作業に関しては待時加重という。

703 待時負荷→「待時荷重」参照

704 ダイナミック印象 ーいんしょう

dynamic impression

旧義歯あるいは最終義歯をトレーの代わりとして、長時間流動性が持続する印象材を用いて患者の日常生活における機能時の義歯床下粘膜の動態を採得する印象。

705 大連結子 だいいんけつし

major connector

連結子の1つで、離れた位置にある義歯床と義歯床、義歯床と間接支台装置などを連結する部分。上顎に用いられるものとして、パラタルバー、パラタルストラップおよびパラタルプレートがあり、下顎には、リンガルバー、リンガルプレートおよびリンガルエブロンがある。

706 ダウエルピン

dowel pin

ポリプロピレン系の樹脂が用いられている。人工歯を除く義歯全体を熱可塑性樹脂で製作するものと、金属構造を併用するものがある。一般にノンクラスプデンチャー、フレキシブルデンチャーなどと呼称される義歯は、定義上、ノンメタルクラスプデンチャーに含まれる。

は

817 バー

bar

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する棒状の金属部分。臨床的目安として、幅が8mm以下のものとされる。その適用部位によりパラタルバー、リングルバー、外側バーに分類され、また、製造法により鋳造バー、屈曲バーに分類される。

818 バーアタッチメント

bar attachment

離れた支台歯を連結固定するバーと、これを把持するために義歯側に設置されるスリーブからなる。緩圧型（可動性）のバージョイントタイプ（bar joint type）と非緩圧型（固定性）のバーユニットタイプ（bar unit type）がある。アッカーマンバーアンドクリップタイプアタッチメント、Dolderバー、Haderバーアタッチメントなどがある。

819 バー義歯 ーざし

bar denture

- 1) 大連結子としてバーを応用した部分床義歯。
- 2) バーアタッチメントを維持・支持に用いたオーバーデンチャー。

820 パークラスプ

bar clasp

支台歯に近接する義歯床縁または連結子から起こり、歯槽部を支台歯に向かって横走するバー状の鉤腕をもつクラスプの総称。鉤腕は支台歯の頬側面または舌側面に向かって彎曲し、鉤尖が支台歯のアンダーカット域に適合する。鉤腕が歯面と接する部分の形態により、Iパークラスプ、Tパークラスプなどがある。

821 Hader バーアタッチメント

はーだー

Hader bar attachment

プラスチック製のバー、スペーサー、サドルから構成されるバーアタッチメント。バーは加熱して欠損部形態に適合するよう形態の修正が可能で、鋳造して金属に置き換える。義歯完成後にプラスチックサドルを挿入する。維持力の調節は不可であるが、維持力が低下した場合は簡単にサドルの交換が可能である。

822 ハードブローイング→「ブローイングテスト」参照

823 ハーフアンドハーフクラスプ

half and half clasp

環状鉤の1つで、支台歯の近遠心側にそれぞれ独立した体部とレストを有し、一方は頬側を他方は舌側を走行する鉤腕をもつクラスプ。孤立歯が適応症とされる。

824 ハーフクラウン

half crown

前歯・臼歯を問わず、歯面のほぼ1/2を覆うクラウンの総称。

825 バイトアブライアンス→「オクルーザルアブライアンス」参照

826 バイトゲージ

bite gauge

咬合高径の決定に用いられ、顔面の計測基準点間距離を計測する装置の総称。